

パートナーシップおかげ

NO. 19

岡谷市男女共同参画推進市民の会

「男女共同参画と明るい社会」について

今井区 区長 今井 崇裕

今迄の生活の中、男女共同参画の考えは薄かったが区の行政に携わり、社会活動に女性の考え、行動を取り入れる重要性和結果の偉大さを今さらながら痛感致しました。

色々の物作りに於いてソフト面、ハード面において男性としての考え、女性としての考え、行動の違いを認識し、お互いの協議の結果から共同で作りに上げる事が、より、活動の目的、成果、使う人、社会秩序の形成に大きなまとまりが得られる。

特に少子高齢化社会に遭遇し、高齢者の介護も男女共同で行い、制度等について政策作りにも女性が参加する重要性を感じる。

ともあれ社会全体の意識の高揚により、女性の今迄の家庭でのあり方の変革に各人が取り組み、男女共同参画によって改革を図り社会の役割分担、慣習、しきたり等を見直し、共に喜ぶ社会にしたい。その為にも男女共同参画の「男女雇用機会均等法」、「女子差別撤廃条約」等も順守し、各人の意識の改革を図り社会作りに進んでいければいいと思います。

政府も男女共同参画社会を 21 世紀の我が国の重要課題と位置づけ、地方公共団体にも取組を指示している。

幸せとは何かと考える時、各人が皆と手を取り合い、会話し、助け合い、笑顔で生活出来る社会また家庭に生きる事ではないだろうか。その為にも男女共同でお互いの意思を尊重し、目的を達成する社会形成をしてゆく事が重要である。

白馬村で発生した地震で、皆の見守りによって死者が無かった事をみても、お互いに助け合う心を持つ、つまり皆で手を取り合い、明るい社会を作る為にも男女共同参画社会を作らなければならないと思う。



日本女性会議 2014 札幌 参加報告

「未来の景色、わたくしたちが変える」をキャッチフレーズに 10 月 17 日～19 日まで日本女性会議が開かれました。今年は遠方なのでどうしたものか迷いましたが、例年この会議の内容が充実しているので、今年も出かけてきました。

会場のコンベンションセンターは素晴らしい施設で圧倒されました。

基調講演は内閣府男女共同参画局で現状と課題の報告。特別講演の大平まゆみさんは、札幌交響楽団のコンサートマスター。「100 歳まで弾くからね!」と題し、母親としてコンサートマスターとして輝いている様子が、バイオリンの演奏も交えて感動的に語られました。

9 つある分科会はどれも魅力的で迷います。オープニングには、アイヌ文化研究会によるアイヌの踊り、アトラクションは大学生による迫力ある“よさこいソーラン節”で北海道ムード満点でした。

(小池 喜代)



大平まゆみさん

～がんばっている～ 女性区会議員との懇談会

日時 平成26年11月4日(火)19:00～
 ところ イルフプラザ・カルチャーセンター
 主催 岡谷市男女共同参画推進市民の会
 対象 市内各区長と女性区会議員
 出席者 16名
 区長 今井区1名
 女性区会議員 今井区2名 下浜区1名
 中村区2名 中屋区1名
 市民の会員 8名
 事務局(市企画課) 1名
 市内21地区区会議員総数 429名
 女性区会議員数 43名 10.0% (26.10現在)



主催者宮坂会長あいさつ後、進行係り小池副会長より開催主旨説明。自己紹介があり話し合いに入る。

開催の主旨

地域における自治会長・PTA会長等女性が少ない。男女共同参画をより進めるために、女性も地域の役職等を経験しトップに立ち、男女ともに住みよい社会にしたい。まだまだ役職を敬遠する女性もおり女性自身の意識改革も必要。

～以下交わされた意見交換より抜粋～

◇各区における女性区会議員の活動状況について◇

- ・提案事項の審議と議決を行う。希望する委員会(主として厚生・社会)に所属しそれらの事業を行う。その他区の行事には自主的に参加。任期2年。
- ・議案審議、承認、区の行事にはできるだけ参加する。次の議員選び。現在副議長。任期2年。
- ・保健委員長であり非常に忙しい。区議でもあるので区の行事には議員として参加する。
- ・私の区は林野、土木事業に女性議員も参加し境堀にも行きます。(異口同音に驚きの声)
- ・区の諸行事に男性だけがやるという時代ではなくなったと感じている。

◇区会議員が執行機関にも関るのはおかしいのではないか?◇

- ・ある区は議決機関と執行機関を条例で分けており本来はそうあるべきだと思う。
- ・区会議員が議決・執行機関そのどちらにも関わっている区が多いのではないのでしょうか。
- ・自ら提案しても財産管理委員会など必要機関を経て議会へ提案される。他の議員も審議に加わるのでおかしいとは思わない。
- ・区という小さな組織の事なので悪いとは言わないが、国・市でも立法。行政は分けている。
(この件について活発に議論が交わされた)

◇女性の社会参加が進まないのはなぜか、女性区会議員もなかなか増えないのはなぜ?◇

- ・区によっては区議はあらゆる事業に参加するので、女性は出しにくいという声もある。
- ・夫からのプレッシャー。(俺がまだやっていないのに。夫の一存で断る)
- ・役職を頼まれてもしり込みをする女性もいる。経験不足か意識の問題か。

◇どんな分野にどのように女性が関わったらよいだろうか◇

- ・防災計画に女性も参画し、女性の視点も取り入れ大変役にたっている。
- ・福祉事業・青少年健全育成・子育て支援には女性の意見は絶対に必要。
- ・保健委員会に男性も入ってほしい。健康に関することは女性だけの問題ではない。

◇意見交換が終わって◇

男女ともに関れる組織づくりが行われつつあると感じました。
 区長さんが一人参加してくださり男女双方率直な意見交換ができ、終始笑いが絶えず有意義な交流会でした。次回はもっと多くの区長さんの参加が期待されます。(黒岩末寿子)

平成26年度

男女共同参画推進県民大会開かれる

平成26年11月15日(土) 場所 千曲市戸倉創造館

◇講演 渥美 由喜さん 内閣府少子化危機突破タスクフォース政策推進チームリーダー
(東レ経営研究所 研究部長)

講演 テーマ 「一人ひとりがイキイキと働くワーク・ライフ・バランス」
～育児・介護と仕事の両立について～

<人口減少社会> 総戦力。企業は人の奪い合いになる。効率的な働き方を習慣化させる。

<自律> 中長期的に自己のワークとライフのプランを展望,主体的・積極的に自分の強みを磨く。

<支援は三倍返し> 職場で育休・介護など支援を受けたらやがて支援に回る。その時は三倍返し。

◇パネルディスカッション 「ワーク・ライフ・バランス の推進について」

コーディネーター 渥美 由喜さん

パネリスト

- ・白井 靖信さん(株式会社サイベックコーポレーション専務取締役)
思いやり (有給休暇の共有、必要な人に皆が少しずつ提供)
家族との交流会 (働く姿を見てもらい会社と家族との交流)
女性が働きやすい環境作り
- ・宮尾 秀子さん(npo法人 子育て応援団ばれっと代表)
子育て中の母親を支援 (1時間500円で家事・育児応援)
すてきなママになるための講座(企業に就業時間内に開設を働きかける)
- ・百瀬 真希さん(株式会社みやま代表取締役社長)父が倒れ社長に就任。
社員と社内改革(雇用は守る,社員とのコミュニケーションを大切に)
中小企業には優秀な男性は来ない,優秀な女性社員を育て長く働いてもらう。
パートから正社員にと働きかけるが、ノーという夫が多い。



パネルディスカッション

講演は聞き手に伝えようとする意気込みは伝わってきたが、早口と言葉が聞き取れない部分があり内容が良かっただけに惜しまれた。

パネルディスカッションでは社員あつての会社、環境を整え優秀な社員を育て長く働いてもらうなど、新しい感覚の若手経営者が増えつつあることを実感しました。

時間に余裕のできた主婦が仲間を誘い地域で子育てママの支援だけでなく、子育てパパを増やそうと頑張っている勇氣ある行動に感銘いたしました。(参加しての感想 小沢 享子)

視察研修 10/31 国立女性教育会館(ヌエック)と丸木美術館へ

市民の会員を中心に5名が美しく紅葉した木々に囲まれたヌエックで、男女共同参画について知識を深めて参りました。

先ず上田市出身の調整主幹、小林千枝子さんの講義があり、男女共同参画につき学びました。

- ◇ 「世界経済フォーラム調査」が発表した「男女格差報告」で、<政治への参加,職場への進出,教育,健康度合い>において日本は142カ国中104位である。世界・日本・県の中で岡谷の現状(指標,条例など)はどうなのか比較してみる事が大事です。
- ◇ 地域で男女共同参画を推進するには、具体的に課題を選び、押し付けでなく理解を得ながら取り組むことが重要です。今日の社会・経済の閉塞感を打破するために女性の活躍が求められています。



ヌエック研修棟の前で

丸木美術館

原爆の図 丸木美術館は、画家の丸木夫妻の共同制作で30年以上の歳月をかけて全15部の<原爆の図>を完成させました。丸木夫妻は、広島に投下された原爆の様子をいち早く目撃し、代表作となる<原爆の図>をはじめ、戦争や公害など、人間が人間を傷つけ破壊することの愚かを生涯かけて描き続けました。

この美術館は芸術を通して原爆の悲劇を伝え、命の大切さについて考えることができる美術館でした。男女共同参画について学び、命の大切さを思う有意義な1日でした。

(今井 和子)

平成26年度 男女共同参画

“おかや市民のつどい”

11月29日(土)カノラホール 小ホールにて、おかや市民のつどい実行委員会・岡谷市主催で開催されました。市長さんのあいさつに続きパネルディスカッションと講演があり、介護問題、人としての尊厳などについて学びました。

おかや市民のつどいに参加して

中村区 民生児童委員 廣沢 孝之

「おかや市民のつどい」は二部構成で一部は小口啓子さん(元市福祉政策担当参事)をコーディネーターに、松井フミ子さん(介護老人保健施設白寿荘元看護師長)、大和洋平さん(介護相談員)、三村靖夫さん(市介護福祉課長)の三名の方をパネラーとして、「ともに支え合う介護」というテーマでのパネルディスカッションでした。松井さん、大和さんは体験に基づき認知症の方・家族への接し方や支援の大切さを述べていました。松井さんの認知症の人でも残された能力を尊重していく姿勢が大切だという話は、NHKラジオ深夜便で放送された認知症を発症された男性が、奥さんや周囲の人に支えられて短歌集を出版した話に重なる部分があると思いました。

三村さんは行政に寄せられる相談を踏まえ、地域包括センターでは認知症施策を柱の一つにし、地域の方の協力を頂きながら介護支援に繋げていきたいと呼びかけていました。

介護の問題は厳しい環境に置かれている人を、関係機関と地域が連携し、予防介護の事も考慮しながら支えていくことが重要だと思いました。



パネルディスカッション

二部は「尊厳をもって生き抜くために」という演題で渡辺哲雄先生(日本福祉大学中央福祉専門学校専任教員)の講演を聞きました。その中で尊厳、差別という言葉に言及し尊厳とは意志、差別とは個人の意志が不合理に制限される事であるとして、色々な例を引いて解説されていた。その中で男女に関する問題にも触れ、トイレの標識、漢字、歌詞等を例に、これらが差別かどうかは意識の問題で今どんな世の中に住んでいるかで変わる。



渡辺哲雄さん

尊厳の問題は経済との関りが深く、超高齢化社会の中、政府では種々制度改革を進め、企業も有期雇用が認められる様になった。

有期雇用の人にも専門職としての道はあるが、専門職以外の安い労働力の中に、尊厳(自由)があるかと言う事だ。そこで正規、非正規に関らず同一労働・同一賃金等に関心を持ちながら、男女ともお互いに認め合い男女共同を考えてはどうかと結ばれた。

今回の講演を聞いて、グローバル化の進化に伴い、日本が置かれている環境で自分らしくどう生きていくか今後の参考にしたいと思います。